

ドイツアート Bar Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、Bar のようなくつろいだ雰囲気でアートを語り合うイベントシリーズです。今回のテーマは、『ビッグデータ時代の芸術表現』。

IT の進化に伴い、資本主義社会はビッグデータに左右されるようになっています。洗練されたアルゴリズムが、細分化された消費者の嗜好を特定の商品に誘う仕組みも、完成の域に近づいているようです。芸術的な創造行為も、こうした変化を無視できない状況になっているのでしょうか。それとも、こうした状況と一線を画してこそ、芸術文化の存在意義があるといえるのでしょうか。

今回の Creators@Kamogawa 座談会では、今年 4 月中旬～7 月中旬までヴィラ鴨川に滞在するドイツ人芸術家 5 人が、メディアアーティストとして様々な表現の可能性を追求する藤幡正樹氏と、近代日本の視覚文化を研究する佐藤守弘氏をゲストに迎え、ビッグデータ時代におけるメディア・情報環境の変化が、創作過程にどのような影響を及ぼすのかを話し合います。デジタル技術の発展による日常と仮想現実の混じり合いや、そこに潜む法則や可能性を前に、どのような創作上のストラテジーがあるのでしょうか。また、東洋と西洋では取り組み方に違いは見られるでしょうか。

座談会の後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



ルードヴィヒ・ハイムバッハ Ludwig Heimbach (建築家)

1971 年生れ。ベルリン、ウィーンで建築を学び、ケルンとベルリンに在住。ハイムバッハの建築事務所によるプロジェクトは、住まうというテーマ、都市の外部空間と(室内との)境界部分との空間コミュニケーションを大きな特色とする。ハイムバッハのプロジェクトは第 12 回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展等で紹介された。京都滞在中は、日本家屋が有する多様な共用機能の可能性、それが持つ将来の居住モデルのためのポテンシャルについて、リサーチする予定。



藤幡 正樹 Masaki Fujihata (メディアアーティスト)

80 年代の CG やアニメーションの仕事から、コンピュータによる彫刻やインタラクティブな作品を通して、様々な表現の可能性を追求し続けてきた。その作品は、常に技術と表現の本質を見極めようというもので、人間の知覚や意識、あるいは「なぜ人はコミュニケーションしたがるのか」といった根本的な問いを投げかけてゆくものである。独自な哲学と、ユーモアに溢れた作品やプロジェクトは、国内外で高い評価を得ている。第 60 回芸術選奨受賞。公式サイト <http://www.fujihata.jp>



レーナ・インケン・シェーファー Lena Inken Schaefer (美術家)

1982 年生れ。ベルリンとバルセロナで絵画を学び、現在はベルリンで活動。その作品では、体系の中の記号や装飾的フォルムの脱構築・再構成、意味の転化、価値体系の抽象化をテーマとする。作品はドイツ国内外の数々の展覧会で紹介され、2015 年には作品図録『日は長く、夜は冷たい』が刊行された。2014 年ブレーメンの造形芸術奨励賞を受賞。京都滞在中も、紙幣の装飾的デザインという従来のテーマを追求し、木版刷りについてリサーチする予定。



佐藤 守弘 Morihiro Satow (視覚文化研究者)

1966 年生れ。博士(芸術学・同志社大学)。現在、京都精華大学教授。主に近代日本における風景やトポグラフィ(場所表象)の果たした社会的な機能について研究している。著書に『トポグラフィの日本近代一江戸泥絵・横浜写真・芸術写真』(青弓社)等。翻訳にジェフリー・バッテン『写真のアルケオロジー』(共訳、青弓社)等。第 62 回芸術選奨新人賞(評論等部門)受賞。文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員(2014 年～)。公式サイト <http://web.kyoto-inet.or.jp/people/b-monkey>



ユーディット・ゼング Judith Seng (デザイナー、美術家)

1974 年生れ。ベルリンの大学でデザインを学び、現在も同市に在住。実験的なプロジェクトシリーズ「アクティング・シングズ」では、パフォーミングアーツの要素を取り入れ、生産プロセスをリサーチ。2013 年には同名の書籍が刊行された。ゼングの作品やパフォーマンスは、ベルリン、ニューヨーク、東京など世界各地で紹介されている。京都滞在中は、茶道と日本の工芸技術を題材に、日々繰り返されるセロモニーの枠組みから、オブジェクトが作られるという生産実験を考案する予定。



小崎 哲哉 Tetsuya Ozaki (司会、構成)

1955 年東京生れ。ウェブマガジン『REALTOKYO』『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ 2013 のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。4 月 29 日から、京都造形芸術大学ギャラリ・オープで『百年の愚行展』を開催予定。



ライフ・ラントとヤコブ・ノルテは京都滞在中、日本について、そしてグローバル社会の若者層について、画像コレクションとテキストを用い、フィクションと実話が半々のリボルタージュ「2k16 桜予想」の制作を計画している。

ヤコブ・ノルテ Jakob Nolte (作家)

1988 年生れ、ベルリン在住。シナリオ・ライティングを学び、散文、戯曲、コミックも手掛ける。作品はベルリン・ドイツ座等、様々な舞台で上演。戯曲「動物界」でミヒエル・デカーと共にベルリン州グリム兄弟賞を受賞(2013 年)、2015 年には小説『アルフ』が出版された。

ライフ・ラント Leif Randt (作家)

1983 年生れ、マインツ在住。社会学、ポップカルチャー、メディア論、文学等を学んだ。代表作に小説『コビーユに煌く露』(2011 年)、『惑星マグノン』(2015 年)など。その他受賞歴多数。直近では 2012 年のデュッセルドルフ文学賞を受賞した。

交通のご案内

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩 8 分

京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩 6 分



主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町 19-3

(川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線 31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などを用意して、皆様のお越しをお待ちしています。



GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA

Photo: Lena Inken Schaefer, "o.t.", 2012